

第8回小山町の教育のあり方調査研究委員会 議事録

- 1 開催日時 令和5年12月12日（火）午後2時30分開会
- 2 開催場所 小山町役場 大会議室
- 3 出席委員 武井敦史委員長、岩田祥吾副委員長、池谷弘委員、
田中清子委員、山口純委員、斎藤美栄委員、杉本奈々委員
臼井聖香委員、相原正和委員
- 4 出席した事務局職員等
野木雄次教育次長、伊藤和彦学校教育課長
井上幹夫学校教育専門監、坂本竹人こども未来課長
中澤芳文学校教育課長補佐
- 5 会議次第
 - (1) 開 会
 - (2) 教育長あいさつ
 - (3) 委員長あいさつ
 - (4) 議 事
 - ア 町立こども園、小学校、中学校の今後について
 - イ 報告書全体について
 - (5) 閉会
- 6 議事録

(1) 中澤学校教育課長補佐が開会を宣言した。

(2) 教育長あいさつ

教育長：本日は、お集まりいただき本当にありがとうございます。最近、この委員会の方向性がどうなっているのか色々な方から聞かれる。これはつまり、皆さんが不安に思っていることの現れだと強く感じた。やはり何らかの見通しが必要であって、それが、この委員会で1つでも出てくれればと思う。もう1つは、これまでに開催した委員会7回の経験を通じて、委員の皆さんの率直な御意見をいただきたい。その上で、限られた時間の中ではあるが議論ができればと思う。どうぞ皆さんよろしくお願いいたします。

(3) 委員長あいさつ

武井委員長：今回の第8回と、次回の開催で最終的な結論という形になる。私自身が考える最終的なゴールは1つの報告書を作成すること。しかし、今教育長が言われたように、この報告書をもって今後の学校がどうなるのかという結論を出すまでには至らないと思う。何故なら、これまでに議論を重ねてきたが、それでも不透明な部分があまりにも多すぎるからである。この不透明な部分をしっかりと議論して考えて欲しいというところが、最終的な落としどころになると思う。つまり、これまで議論したことが反映される形の報告書にしなければならない。そのために、何が必要かということを率直に御意見いただいて、ここで議論出来ればと思う。今日はよろしくお願いいたします。

(4) 議事

武井委員長進行

(ア) 町立こども園、小学校、中学校の今後について

議事(ア)について伊藤学校教育課長が下記の通り説明した。

町立こども園、小学校、中学校の今後についてであります。

委員の皆様には、本日の委員会開催に先立ち一読していただくため、報告書の修正案を郵送させていただいております。

前回示させていただいた事務局案を武井委員長と修正をしたものであります。

それでは、報告書21ページをお願いします。(1) こども園についてであります。こども園につきましては、この委員会の中で検討してきましたとおり、現在、第1園舎と第2園舎に分かれている、するがおやまこども園については、入園の申込者が少なく現状の園児数では維持が難しいことから廃止する方向であります。この件に関しましては、既にこども未来課を中心に検討に入っていますので、こども未来課より現状を説明していただきます。

こども未来課長

こども園の状況は、前回までの検討結果を受けまして、するがおやまこども園で、在園児の保護者を対象に説明会を開催しました。そこでの意見は、今の人数では仕方がないという雰囲気でありましたが、小中学校の統合には反対する意見がありました。

次に(2) 小学校であります。小学校については、一つの意見に絞り込むのではなく、AからCの3つを事務局案として提示しています。A案につきましては、現在ある5校体制を維持し、北郷小学校以外の4校については単学級体制とする。理由としましては、①子ども一人ひとりに目が届く、②学校目標や重点目標などへの取り組みが徹底しやすい、③子ども同志の人間関係が構築されお互いを深く理解しあ

える、④学校が地域文化の拠点となっており地域が学校に協力する気持ちがある、⑤小山町全体の教員の数を多く確保できる。などです。しかし、こちらの案は、今後の児童数の減少に対し見直しをしなければならないと考えます。

B案は、小山中学校区内の3校（成美小学校・明倫小学校・足柄小学校）を1つの小学校として単学級を減らすという案です。理由としては、①3校は距離が近く例え通学にバスを利用したとしても短時間で済む②中規模校となることで1学年2学級規模の学校となる、③人間関係の固定化を防止し多くの児童と触れ合える、④クラス替えが可能⑤教職員同士の学びの機会が増え教師力の向上も期待できる、⑥学年主任を配置でき、学年経営や様々な課題に学年として対応できる。などです。場所をどこにするか等の問題はありますが、それは次の段階での議論になると思います。

C案は、須走小学校と須走中学校を一貫校とする案です。この案については、B案との複合案や、C案単独案とあります。理由としては、①須走地区は他の地区と離れており、他の学校と一緒にするのが難しい、②現在、既にランチルームを共有していますが、小中一貫校とすることで学校規模を大きくし、特認校として町内全体からの入学者を募る、③小中一貫校として特色ある学校教育の推進が図れる、などです。

続きまして22ページ中段の（3）中学校についてです。小学校と同じように一つの意見に絞り込むのではなく、こちらはA～Dの4つの案を提示しています。先ずA案につきましては、現在の3校体制を維持していく。理由につきましては、小学校の①案と重なりますが、①子ども一人ひとりに目が届く、②学校目標や重点目標などへの取り組みが徹底しやすい、③子ども同志の人間関係が構築されお互いを深く理解しあえる、④学校が地域文化の拠点となっており地域が学校に協力する気持ちがある、などです。この案に関しましても、小学校と同様に今後、生徒数の減少に対し、見直しが必要と考えます。

B案は、小山中学校と北郷中学校を統合し、町内2校とする案です。理由として、①今後の生徒数減少に対応できる、②多様な人間関係を作ることによる切磋琢磨や人間関係づくりなど子ども達の生きる力を総合的に伸ばすことが出来ると考えられる、③より良い部活動の姿が期待できる、④教科担当教員が複数となり、教科についての授業研究が進み、担任の授業力による影響が緩和される、などです。

C案は、中学校3校を1校にする案です。理由としては、B案と同様です。この案については、先ずB案を進め、その後、須走中と一緒にする段階的方法と、一気に3校一緒にする方法が考えられます。

D案は、小学校のC案と同様、須走小学校と須走中学校を一貫校とする案です。理由としては小学校のC案と同様です。

事務局としましては、様々な案が考えられる中、10年後の学校像をどう描くかという点と、当面の今後5年程度をどのような方法で乗り切っていくかを、一つにまとめるのではなく、様々な可能性を含んだ複数の意見を提案できればと思います。

なお、意見交換に先立ちまして、岩田祥吾副委員長から意見をいただいております。

※資料に基づき岩田委員からの説明あり。

※武井委員長から事前に配布した報告書案からの加筆・修正部について補足説明があった。

田中委員：このまま子供の人数が減少して、複式学級のような形になる前には手を打たなければならないと思う。人数の減り方で特に成美・明倫・足柄は人数の減り方は顕著に表れている。このままいくといずれ小山中学校も単学級になる可能性になる。いざその時に慌てるのではなく、今の段階で、成美・明倫・足柄をどこかと統合するような案が必要だと思う。そして、子供たちが元気に育っていく学校であるためには、3校区でそれぞれ教育していくことでも良いが、統合して同じ目標に向かってみんなで頑張れる環境であれば、本当にありがたいことだと思う。今はその前段階として、小学校で3校交流事業をしているが、これをこのまま長く続けるものではないと思う。

池谷委員：私が感じたことは、地域のコミュニティの観点。学校と地域のコミュニティは結構繋がっているんで、この繋がりは大事にしたい。それとアイデアの方で須走小・中学校の特認校化については、教育を全部平等化して取り組むよりかは特色のある教育を作って、理想というか素晴らしさを感じてもらい、それを広めていく方が良いのではと感じる。そのためには、お金が必要になるといった場合にも、須走地区には支援してくれる団体がある。他にも地域との関係という点で実現の可能性が高いと思うのは試案2「学校間を繋いだ分散・選択型プロジェクト型学習の推進」だと思う。この学習方法であれば学校同士で交流を図ることができるし、指導者も先生でなくとも、小山町民の中で、その役を担ってくれる協力者はきっといる。

委員長：須走小・中学校を特認校した時に地域は受け入れてくれるか。

池谷委員：個人的には受け入れてくれるとは思う。また、将来的にもICTを活用した学校間交流がなされていくことを考えると研究していく必要があると思う。

相原委員：まず、私の思いとして各学校区は大事にしてもらいたい。町でこども園化する時にも、幼稚園や保育園の保護者から様々な意見がでたが、実際にこども園化され、時間が経つとこれで良かったという声が上がっている。中学校は大勢で競い合うことも大事になってくるので、中学校を一つにするアイデアはありだと思う。小学校は現状の5校のままで、何かの授業の時に学校間交流で、こども同士交流が出来れば、中学校に進学した際の

不安も軽減されると思う。また、実際の話、小山町に同級生が少ないという理由で県外へ引っ越すケースもある。この先も同じように町外へ流出してしまうケースは想定されるので、統合するのであれば早めに動いた方が良いと考える。

委員長：人口増加は難しいが、人口の減り方を軽減することはできる。最後にこの報告書の形式について、これまで議論してきた問題の深刻さをどのように表現するのか、表現の仕方についても考えていきたい。

齋藤委員：町で最初のこども園である、きたごうこども園ができてから10年が経つ。10年経って、ようやくこども園の本来の形が見えてきたと思う。こども園設立当時は、幼稚園の先生や保育園の先生と一緒に環境になるので、共有を図ることがとても大変だった。逆にこども達の方が順応性あって、環境に合わせられていた。今回の学校規模については難しくて答えられないが、こども園設立から10年経っても達成感は感じられないので、新しいことを始めてその結果が出るまでに時間を要することを鑑みると、ここで将来の方向性、目標は必要になると思う。

臼井委員：保護者としてはB案（小山中校区の小学校を1つ）が希望である。保護者が小山町に残ってもらうためには、新しい学習の取り組みがないと残らないと思うし、そうした取り組みを魅力としてアピールできれば良いと思う

山口委員：私自身、教員の立場プラス保護者の立場でもあるので、まず教員立場の視点で感じることは、1つの学年にあともう1人教員がつけられればということ。そうすれば、教員同士サポートしながらできると思うし、実際に1人で1学年を担当してみても結構大変というのが正直な思い。保護者としての立場では、単学級よりも2学級あって、子どもたち同士が切磋琢磨できる環境の学校に通わせたいという思いはある。

杉本委員：保護者として、北郷幼稚園からきたごうこども園に移行した当時を経験しているが、子どもたちは新しい環境に柔軟に適応していたと感じる。なので、統合に関しても子どもたちは問題ないと思う。親として、もし自分の子の通う小学校が単学級だったら、その校区の園は選択していないと思うし、私立園や転出も含めて検討をしていたと思う。逆に、須走小・中を特認校化するような特色ある学校であれば就学させたいとも思う。

委員長：保護者の多くの方はそのように考えていると思う。これから学校を統合するのであれば、恐らく10年間程のスパンが必要になる。報告書を修正するのであれば、報告書の第7章の協議内容に岩田委員がおっしゃった、小中学校一貫校や義務教育学校であるとか、

特認校等を併記しておくことはできる。ただ、学校規模の問題を考えた時に「時期尚早」と言えるかどうか。人口の減少ペースからして時期尚早とは言っていない段階にあると思う。結論としては早急に学校のあり方について検討は始めるが、現状の学校の形のままあり続けることは考えられない。でもこの段階でどの学校同士を統合するとまでは躊躇する。その間までに、ICTの活用が進んで学校連携が図られたり、例えば小学5年生から一緒になることが制度的にできるようになるかもしれない。そうすると今の段階の結論としては、小・中学校を一体とするような義務教育学校または、一貫校を含めて考えることも出しておいて、これに加えて須走小・中学校の特認校もあって良いと思う。

岩田委員：学校区を須走地区と須走地区以外で分けてしまうことの不安は感じる。

委員長：制度的な面では問題ないが、須走を特認校という扱いで他の学校と比較して特別扱いのような感じ方をされるのは望ましくない。理想としてはどちらの学校が良い悪いの話ではなく、特性に応じた教育を選べる形が一番良い。では、私の方で少し修正をさせていただくとすると、小学校C案と中学校D案を削除し、別に分けるとして一貫校、特認校についての検討とさせていただく。後は、実行案をここに書いておくかどうか。単に数の論理だけで、考えれば1校とする案が出てくる可能性は非常に高い。現に下田市は人口3万人程度だが中学校を1校に統合した。それらを加味すると、町内小学校1校と中学校1校案と小・中学校一貫校案を今の報告書に加える形で修正をする。そして次回の委員会時に最終案を議論し、結論付けた後、私と事務局で文章の体裁等を含め報告書をまとめさせていただく方向でできればと思う。また、本委員会後の今後のスケジュールについても考えておきたい。学校規模適正化を前倒しにするのか、後ろ倒しにするのか。そうした時間軸もできればここで出しておきたい。

教育長：本来のスケジュールでは、令和5年度までに本委員会の立ち上げ及び検討。令和6年度から学校規模適正委員会を立ち上げて検討することが当初の案だった。しかし、この委員会としては1年間猶予を置きたいことを提案するのであればそれは提案してもよいと思う。その場合、時間が空くことによって何も動き出してないという状態を作ると、様々な意見や動きが出てしまい、まとまらなくなると思う。従って、当初の予定通り令和6年度に学校規模適正委員会を立ち上げるが、年度末までの開催を目標として、それまでに、教育委員会内や町の総合教育会議を通じて話し合い準備を進めていければ良いと考える。

委員長：その方が良い。では令和6年度中に学校規模適正化委員会を設置すると報告書に追記する。また、一番心配するのが報告書を作っ

でも読まれない報告書だと困る。何か工夫した方が良い点はあるか。

相原委員：保護者はあまり文字を読まない。図の様な視覚的に分かりやすい形の報告書が良いと思う。

委員長：それは取り入れましょう。では次回の委員会開催の一週間前までに修正した最終案を委員の皆様を送らせていただき、委員会時に議論を行う。そこで最終的な文言等の修正を加えていただき、最後は私と事務局の方に任せていただく形で進めさせてもらう。本日はありがとうございました。

(イ) 報告書全体について
議事(ア)の中で議論した。

(5) 中澤学校教育課長補佐が閉会とした。